



学校だより

# みどりの

- 考え伝え合う子
- 心豊かな子
- 元気な子
- やりぬく子

令和5年2月1日

## 居心地の良い場を整えるには

校長 遠藤 昌司

一月には恒例の書き初めがありました。4年生以上は体育館でそれぞれ、「明るい心」、「新しい風」、「将来の夢」を書きました。いつもの半紙より大きい書き初め用紙は勝手が違うようで、だいぶ大人びてきた6年生が首を傾げたり、何度も紙の上で筆の運びを確認したりする様子は、見ていてほほえましく感じました。他にも1年生の凧揚げや、3学期の給食開始にお雑煮が出るなど、学校の中でのお正月気分を味わうことができました。年が明けて間もないこの時期は、年度の締めくくりの時期でもあります。あとひと月と少し、各学年・学級とも、学年の仕上げに邁進しているところです。

緑野小学校では放送委員会が毎朝、「安全を見守ってくださっている地域の方に挨拶はできましたか。自分から進んでおはようございますの挨拶ができると、気持ちよく一日のスタートができますね」とアナウンスをしてくれています。一月の終わりのころ、主に低学年の子がニコニコしながら「こんにちは」と挨拶をしてくれていました。そしてその後は、さっき以上の笑顔で「やった！」と喜びます。少し不思議なこの状況、その理由は「あいさつラリー」でした。三期にわたるこの活動、今年度の運営委員会のメンバーが発案し進めてくれたそうです。対象の教職員に挨拶をするとポイントが加算される仕組みで、今期は私もその対象となっていました。なかなか現金ではありますが、子ども達は楽しみながら取り組んでいたようですし、これをきっかけに挨拶の習慣がより一層根付いけば言うことはありません。子ども達ならではのアイデアで、学校生活が豊かになる試みでした。

先日、大和市教育委員会主催の「いじめを考えるフォーラム」に参加してきました。弁護士の本下（ましも）麻里子先生による、「自分も相手も尊重するには～いじめ問題から考える～」という講演がありました。本下先生は教員免許を所持されていることもあり、教育現場を法的視点からのみで捉えるのではなく、「人の尊厳」というものを大事にされています。内容をここで紹介することはできませんが、12月号で触れた、人権尊重の理念は「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」とも重なるテーマのお話でした。

日々の学校生活の中で、工夫に満ちた取り組みや自分も相手も尊重する意識を高めることは、居心地の良い場を整えていくことにつながります。緑野小学校の子ども達に、大いに期待したいところです。

### パーテーションの取り扱いについて

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大和市から配布されたパーテーションを本校でも活用してきましたが、教育委員会との確認の上、パーテーションの使用はしないこととしています。なお、体調面などの不安から必要とする児童の使用については可能です。

新型コロナウイルス感染症の患者が国内で初めて確認されてから3年たちます。今後、法律上などの扱いも変わってくることが予想されますが、県・市の教育委員会の方針を踏まえながら、学校としての対応を取っていきます。